

市原市認知症対策連絡協議会 第26回 例会 議事録

日時 令和3年10月28日(木) 18:30~20:00

場所 Zoomを使った例会

書記 飯吉

内 容

市原市認知症対策連絡協議会 第26回 例会 ; 参加人数 31名

(1) 開会のあいさつ (永野先生; 市原市認知症対策連絡協議会 副会長、永野歯科医院)

(2) 各事業所の近況報告

小沢先生(ろうさい医院)

- ・コロナ病床の入院者は現在1名。
- ・リハビリ棟が新たに設置されたのでそちらに引っ越しを行います。
- ・現在のリハビリ室は今後ICUやHCUとして利用予定です。

飯吉(なんな苑)

- ・コロナ禍で一時期相談が極端に減ったが、最近はまだ戻ってきた。
- ・それでもまだ、入所・通所の枠に余裕があるのでさらなるご相談をお待ちしています。
- ・コロナ禍でご利用者数が減ったときに環境整備(リハビリ室の整備、老朽化したエレベータの入れ替え等)に力を入れたので設備は整っています。

(3) インフォメーション 安田先生(斎賀医院)

「色々な遠隔コミュニケーションツールの紹介」

- ・Zoom以外に スカイプのグループ会話が簡単になった Spatial Chat は画面上で50人まで随意に班分け会話ができる
- ・インターネットサイトの紹介
 - ・ちえのわネット; 認知症の患者様に対する「対応のアイデア」を紹介するサイト
 - ・アルツハイマー・ストア; 認知症介護の際の便利グッズの紹介サイト
 - ・例えば、入口に大きなポスターを張ることによって入口をマスクングして外への徘徊を防ぐグッズの紹介。
 - ・例えば、色々な遊びグッズの紹介(注意を向けさせることによって問題行動を抑制)。
 - ・例えば、昼間と夜の区別ができる時計の紹介。
 - ・例えば、重い毛布(重い毛布の方が落ち着く)の紹介。
 - ・例えば、磁石を利用した鍵穴のない鍵を使用することによって鍵が見た目で分からないというグッズの紹介。
 - ・MCIカードは英訳したのを米国に紹介。このストアで若年認知症、認知症カードあり
 - ・海外は認知症のオンラインショップが充実している。もし、英語が理解できなければグーグル翻訳、DeepL翻訳を利用すると日本版に変換してくれる。最近精度が向上しています。
- ・もの忘れ・認知症 よりあいサロンの紹介(安田氏などにより開催されている)。
- ・遠隔支援関係の紹介 テレビ電話支援会(1対1会話、傾聴の会とのタイアップによる、ボラと施設入居者との会話)、グループ介護者会、グループ認知症などの本人会

(4) 役員会で議題に上がったテーマの紹介

- ・ 認知症多職種協働研修のテーマの希望はありませんか？
例えば認知症の自覚のない方々への対応。
自動車免許の返納に動いてくれない方々への対応等
- ・ 認知症にやさしいまちづくり活動について（助成金の申請）
具体的な市認協の活動をアピールしたい。
介護者居酒屋や認知症カフェの紹介をより具体的に、
- ・ 認知症に「見守りシール」
多くの自治体で導入が進んでいる。
市原市でも導入ができないだろうか。
- ・ 地域の困りごとって何ですか？
外国人の介護の問題。
8050問題やヤングケアラーの問題。
どんな市原市にしたいですか？

(5) グループごとに分かれて討論会

1 グループ；認知症多職種協働研修のテーマの希望はありませんか？

- ・ 市役所としては現場の意見を聞きたかったので今回の機会は貴重であった。
- ・ 今回伺った結果を将来的にはどんなものを用意できるかの参考にさせて頂きたい。

2 グループ；認知症にやさしいまちづくり活動について（助成金の申請）

- ・ キャッチーなものが必要となるだろう。
- ・ なるべく既存のものを活用していこう。
- ・ 認知症あんしんフェスタが助成金の申請に際にはキャッチーではないか。
 - ・ 当事者参加でどのようなことができるのかをより検討したい。
 - ・ 助成金の時期を考えると開催の時期は6月～8月頃が適当ではないか。

3 グループ；認知症に「見守りシール」（正式名称は「どこシル伝言板」）

- ・各自治体が使っているソフトのメーカーを調べたところ「東邦ホールディングス」により商標登録されている「どこシル伝言板®」を使っていることが判明。
- ・「どこシル伝言板®」内の「地域医療連携室」を全国の自治体で取り入れているようである。
- ・取り入れた自治体のリストが掲載されているので参考にしてみてもどうか。

<https://mirai-town.com/product/map/>

（どこシル伝言板®導入自治体例 ⇒ 1都1府34県／199市町村）

- ・各自治体により事業名称は違うが、基本的には「見守りシール」を使っているようです。
- ・市にアプローチするだけでなく、ソフト会社に、市への積極的な営業をするように市認協からもアプローチしてはどうか。
- ・木更津市は「見守りシール」の配布件数を20件から始めている（千葉日報より）。
- ・木更津市と同様に、市原市でもまず試験的に導入してもらうのは可能ではないか。
- ・市原市認知症対策連絡協議会として市原市に試験導入を申し入れたいと考える。
- ・実務的な普及を各地域包括支援センターから進めていただき、市内全域に普及して行けるように段階的なアプローチはどうだろうか。

4 グループ；地域の困りごとって何ですか？

- ・症例
 - ・身寄りのない独居老人の問題がご本人の知人から包括支援センターに相談が入った。
 - ・親子で金銭的なことに関して不信感がある。
 - ・子供が金庫を使って管理をしているが、いつまで管理ができるか。
 - ・認知症の親と障害者の息子の問題
 - ・離婚して実家に戻ってきた息子がうつ傾向でなかなか社会となじめない。
 - ・包括支援センターで訪問すると尿臭があった。
 - ・8050問題は包括支援センターにて対応します。
- ・キーパーソンがいて知らせてもらえれば対応が可能である。
- ・民生委員が機能しているのかを知りたい。
- ・あんしん訪問員の存在があるが市原市ではどこまで後押ししているのか知りたい。
- ・いずれにしてもネットワークづくりが大切であろう。
- ・テクノロジーの話
 - ・小学校で使用しているiPadの入れ替え際にはそれらを捨てずに老人のもとへ届けるというのはどうだろうか？

5 グループ；地域の困りごとって何ですか？

- ・高齢者の免許の返納については市原市の地域性を考えると返納のメリットがないのではないかと。
 - ・それが市原市内での困りごとである。
 - ・返納してしまうと移動手段がないのが問題。
- ・外国人の問題は包括支援センターでは問題として上がっていないセンターもある。
 - ・サポートセンターでは受けることもある。
 - ・市役所では相談にきている。
 - ・しかし生活レベルの相談にまでは繋がってはいない。

(6) インフォメーション

市役所 小倉氏 より

小倉氏は10月1日付で異動となる。

市原市認知症対策連絡協議会の後任担当は小原氏となる。

(7) 閉会のあいさつ（小沢先生；市原市認知症対策連絡協議会 会長、ろうさい病院）

- ・現在地域での問題は孤立が問題となっていると思う。
- ・本日は集会をもてたということがとても意義があると思う。
- ・コロナ禍の中実際に地域の皆が会って繋がるのは難しいということがしばらく続くのではないかと。
- ・それまで、なんからの方法でこのような繋がりを持ち続けることが大切だと思う。